

8. イタリアでのシンポジウム、ワークショップ開催の報告

報告 日本茶輸出組合

副理事長 谷本宏太郎

① 目的

日本の茶文化は、世界で最も長く継続して一大食文化である。食をテーマに開催されるミラノ万博に、世界の茶文化研究者及び茶教育関係者が集る機会を捉え、日本茶文化の普及啓蒙を図り、安全・安心な高級日本茶を世界に普及させることを目的としてこの事業を実施することを目指した。

上記の目的のためにミラノ市内において茶業者、茶文化研究者及び茶愛好家を対象に茶道のデモンストレーション並びに各種日本茶の体験ワークショップを開催すると共に、西洋文化圏において東洋文化研究に秀でたヴェネチア大学において国際茶文化学会を開催し、学術的な面からも日本茶の普及を促進することを試みた。

② 内容等

ア 広報媒体及びパンフレット等による PR

(ア) PR の種類

日本茶紹介 DVD 及び日本茶業中央会が持つ日本茶解説冊子のイタリア語版の製作を行った。

(イ)対象者

イタリア茶文化協会会員他

ミラノ日本文化協会会員

ヴェネチア国際茶文化学会出席者（主にヴェネチア大学日本語学科学生）

(ウ) 訴求内容

高級な日本茶及び日本茶文化の紹介

(エ) PR 方法

DVD はミラノ日本茶教室において視聴してもらった。さらに共催団体にマスターを寄贈し、希望者にコピーを配布するように依頼した。

パンフレットは参加者に配布し、残りを団体に寄贈した。

(オ) 作成部数、対象者ごとの配布計画

共催団体であるイタリア茶文化協会及びミラノ日本文化協会に DVD を 1 枚ずつ寄贈し、希望者にコピーを配布するように依頼した。

(カ) 効果の検証方法

出席者からアンケートを回収をした。回答は別紙参照

高級な日本茶及び日本茶文化の普及啓蒙には時間がかかります。流行りものはすぐに廃れてしまいます。時間をかけてじっくりと浸透させていくことによって末永く日本茶ファンが増えていくことでしょう。

イ セミナー等の開催

(ア) 事前調整・準備の内容

A 関係機関との調整

日本茶教室に関しては 5 月 2 日(土)～4 日(月)の3日間でミラノ市内の会場候補を調

査して廻りその結果として、イタリア茶文化協会の広報担当者バルバラ・シギエリさんの経営するティールーム付の茶専門店「ラ・テイエラ・エクレティカ」とミラノ日本文化協会(会長は安藤圭子さん)を選定した。その後はバルバラ・シギエリ様及び安藤圭子様とメールにて調整を行った。セミナーの内容については6月5日に東京茶業会館において、鹿児島から中禮雅治氏、京都の桐島俊昭氏、静岡の天野尊人氏、煎茶道から芹澤裕美子氏、及び谷本宏太郎が参集して打合せを行った。

国際茶文化学会についてはイタリア茶文化協会のアルド・トリーニ教授(ヴェネチア大学)と主にメールで調整を行った。更にトリーニ教授が来日中の月 27 日に静岡市内において熊倉功夫静岡文化芸術大学学長、中村羊一郎静岡産業大学教授、高鳥真堂黄檗弘風流家元及び、社中の芹澤裕美子と谷本宏太郎が参集して会議を開催した。

B セミナー等開催の周知・PR 方法

ミラノ日本茶教室の開催については、イタリア茶文化協会広報担当バルバラ・シギエリさんが経営するミラノ市内の茶専門店及びミラノ日本文化協会のメーリングリスト及びウェブサイト上への掲示を行った。

国際茶文化学会については、イタリア茶文化協会及びヴェネチア大学の広報において実施した。又、フランス語圏向けの茶のネット新聞「ラ・ヌーヴォ・プレス・ドウ・テ」によって広報した。更に直前には JETRO ミラノにも広報を依頼した。

C 参加者の募集方法

イタリア茶文化協会の会員及び広報担当のバルバラ・シギエリさんが経営するミラノ市内の茶専門店の顧客、ジャーナリスト、ミラノ日本文化協会の会員、ミラノ日本文化協会の過去の事業への参加者に対して、メールやウェブサイトへの掲示によって受講者の募集を実施した。JETRO ミラノにおいても募集の仲介を依頼した。

(イ) 取組内容

A 開催場所 (都市、会場等)

☆日本茶セミナー (ミラノ日本茶教室)

開催都市:ミラノ

会場 : 茶専門店 ラ・テイエラ・エクレティカ

及び ミラノ日本文化協会





☆ヴェネチア国際茶文化学会

開催都市:ヴェネチア

会場 : ヴェネチア大学及び ホテル・アル・ソル にて茶道と各種日本茶の紹介を実施した。



国際茶文化学会

B 日程

- 5月2日(土)～4日(月) ミラノ市内において、日本茶教室開催場所の調査を実施
- 6月5日(金) ミラノ日本茶教室の国内検討会開催 (東新橋)
- 7月27日(月) ヴェネチア国際茶文化学会の国内検討会開催 (静岡市)
- 9月24日(木)夜 日本茶教室担当者出発 (学会発表者は28日夜出発)
 - 25日(金) 最初の会場へ道具等の搬入と打合せ DVDの確認
 - 26日(土) 会場設営及びリハーサル
 - 27日(日) ミラノ日本茶教室開催
 - 28日(月) ミラノ日本茶教室開催
 - 30日(水) ヴェネチアへ移動 学会発表者はヴェネチアへ集合
- 10月1日(木) 国際茶文化学会開催
 - 2日(金) ヴェネチア空港から帰国へ
 - 3日(土) 成田空港着

C 対象者・参加人数

- ミラノ日本茶教室 イタリア茶文化協会との共催 43名
 - ミラノ日本文化協会との共催 37名
- ヴェネチア国際茶文化学会 ヴェネチア大学でのシンポジウム 85名
 - 茶道及び各種日本茶の紹介 ホテル・アル・ソル 100名強

D 産品紹介の方法・期待される波及効果等

あ)ミラノ日本茶教室においては以下の通りで産品紹介を行った。

①日本茶の製造についてDVDで紹介

内容: 煎茶の製造工程

茶生産家の仕事 手摘みから、手揉みと製茶機械を2画面で紹介

茶匠の仕事 茶の鑑定及び仕上げ加工を紹介

茶市場及び斡旋商との取引

手仕上げと機械仕上げを2画面で紹介

火入れ、合組(ブレンド)の紹介

包装と保存についての紹介

玉露の製造工程

茶生産家の仕事、覆い下茶園での手摘みの紹介

抹茶の製造工程

茶生産家の仕事 茶園の遮光として藁振りの場面を紹介

覆い下茶園での摘採を紹介

碾茶工場での製茶を紹介

抹茶工場での石臼での抹茶製造の紹介

焙じ茶の製造工程

茶匠の仕事 ほうじ茶工場での製造を紹介

茶の楽しみ方の紹介

抹茶および煎茶道の場面を紹介

- ②各種日本茶の試飲 急須で淹れるか、茶笥で点てた茶を各自が湯呑にスプーンで湯呑に取って試飲する方式とした。初回を除いて、淹れ方も説明した。

玉露 八女

煎茶 本山(梅ヶ島)

深蒸し茶 本山(松野)

ほうじ茶 本山

玄米茶 本山

抹茶 (宇治原料使用、松江産)

- ③煎茶道紹介

番茶手前を披露して随時説明を行いながら、質疑応答を行った。

- ④煎茶の淹れ方実習

2-3人組になってもらって、急須で煎茶を入れる実習を行った。

水質、湯の量、温度、茶葉の量、進出時間、廻し注ぎ、最後まで絞る、二煎目、出殻しにポン酢をかけて茶殻がおいしく食べられることを紹介し、保管についての注意を説明した。



い)ヴェネチア大学茶文化学会において日本、アメリカ、イギリス、イタリアの大学教授らによって、日本茶文化についての発表を行った。

- ①熊倉功夫 静岡文化芸術大学学長

”Cha no yu and Japanese Culture”

- ②中村羊一郎 静岡産業大学教授

”Banacha of the common people and Cha no yu”

- ③アンドリュー・ワツキー プリンストン大学教授

”Embracing the Object in Sixteenth-Century *Chanoyu*”

- ④マルコ・チェレーザ サ・フォスカリ(ヴェネチア)大学 教授

”The Chajing : the primary source for world tea culture

- ⑤クリスティン・シュラク S.O.A.S.ロンドン大学 准教授

”Outlaw Tea”

- ⑥アルド・トリーニ サ・フォスカリ(ヴェネチア)大学 教授

”Kirishitan and *cha no yu* in the 16th and early 17th centuries. The culture of tea in the eyes of Europeans.

- ⑦リヴィオ・ザニーニ サ・フォスカリ(ヴェネチア)大学

”Chinese textual sources for sencha culture

う)ホテル・アル・ソル (ヴェネチア大学の近く)において、茶道と各種日本茶の紹介を行った。

- ①大日本茶道学会の町田仙陽師範によって、抹茶の茶道の紹介を行った。

- ②黄檗弘風流高鳥真堂家元率いる社中によって、煎茶道の番茶手前の紹介を行った。

- ③各種日本茶を急須で淹れ、又抹茶を点て、来場者にスプーンで湯呑にとって試飲させた。
尚、簡単な淹れ方の説明も行った。

☆ 期待される波及効果など、

あ)日本茶教室の参加者の反応及びアンケートによると以下のようなことが分かった。

- 1)各種日本茶の紹介によって粉の多いその形状から欧州においては今まで人気が無かった深蒸し茶が、最もおいしいと言う評価を得られた。 今後は深蒸し茶の販売も期待できる。
- 2)ウェルカムドリンクとして冷茶を提案したことによって、水出しによって手軽にとてもおいしい日本茶を楽しむことができることを驚きをもって受け入れられた。
今後は水出し茶を用いた普及活動が大きな効果をもたらすことが期待できる。
- 3)DVD によって正しい日本茶の知識の普及ができた。 DVDのコピーが配布されていけば、正しい日本茶の普及に役立つことが期待できる。
- 4)煎茶道の紹介によって、日本の茶文化は抹茶ばかりではない事を知ってもらえた。
今後は煎茶や番茶などの日本茶を楽しむ文化が広がることが期待できる。
- 5)煎茶の淹れ方実習によって日本茶をおいしく楽しむことを実感してもらえた。
今後は鉄瓶ではなく急須が普及することによっておいしい日本茶が普及することが期待できる。

い)国際茶文化学会においては

- 1)アメリカ、イギリス、イタリア、日本の茶文化研究者が発表を行うことによって、欧米と日本の茶文化研究者の交流ができた。 今後も交流が続くことによって、欧米において日本茶文化の研究が盛んになり、日本茶文化の普及啓蒙に役立つことが期待できる。
- 2)欧米の茶文化研究者は中国の文献に信頼性を持っておらず、中国の文献の日本語訳を信頼していることが分かった。 このことは日本の茶文化の長い伝統と正当性を改めて認識することとなった。 今後は日本が茶文化の研究においてもっとも重要な拠点として評価されていくことが期待できる。
- 3)ヴェネチア大学日本語学科の学生に、日本茶文化についての深い知識を与えることができた。 将来彼らが日本茶文化を正しく伝えてくれることが大いに期待できる。
- 4)各種日本茶及び茶道の紹介を観光地のホテルで開催したことによって、学会出席者ばかりでなく一部の観光客にも日本茶について知ってもらうことができた。 西欧文明における東洋文化の入り口として、ヴェネチアは未だに大きな影響力を持っているのではないかという期待を持って今後もこの事業が続けられることを祈念する。

以上